

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「こころ ゆたかな きくなの子」の育成
 ○ 意欲的に問題解決する子を育てます。(知)
 ○ 自分や相手を大切にすることを育てます。(徳)
 ○ 心と体の健康な子を育てます。(体)
 ○ まちを愛する子を育てます。(公)
 ○ 違いを認め合える子を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈ともにかかわり合いながら学びに向かう力〉
 〈思考・判断・表現につながる言語能力〉
 〈互いを認め合い、問題解決する力〉

具体化した資質・能力

・かかわり合いを通して問題解決する力
 ・自分や相手を大切にできる協調性
 ・主体的に自分を表現する力

中期取組目標

○「こころ ゆたかな きくなの子」の育成を目指して、かかわり合い 心をつなぐ学校にします。
 ・教職員の学びあいを大切にし、個々の能力とチーム力の発揮ができる新たな組織の確立を目指します。(2年目)
 ・心身共に健康な生活習慣の確立と問題解決する力の育成に向けた取り組みを推進します。(2年目)
 ・豊かな人間性の育成のため、互いを認め合う集団づくりを進めます。(2年目)
 ○地域とのつながりを意識し、様々な体験を通して、自分の住んでいるまちを愛する心を育てます。
 ・3年間を通して、一人一人が自己有用感をもち、通わせたい通いたいと思える学校生活が送れるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①全学年・学級で「菊名のまきり」を徹底しながら、基礎・基本の定着を目指していく。 ②研究テーマ「自分を見つめ 主体的に自分を表現していく子をめざして」をもとに、生活科・総合的な学習の時間を中心にかかわり合いを通して、問題解決する力を育てる。
担当	研究推進部

学力向上に関わる本校の状況

学習状況調査の学力の通過率は、どの教科においても市の平均を上回っている。中・高学年では、家庭での学習時間が長いこと、塾で勉強していることが学力の高さにつながっていると考えられる。学習では、授業のねらいを意識し、真面目に学習に取り組んでいることがわかる。しかし、「授業では、自分の考えを発表していますか」という質問については、高学年になると「どちらかといえばしていない」の割合が増える傾向にあった。

生活意識では、学校のきまりを守っている児童が全体に多いことがわかる。一方で、自分には良いところがあるという自己肯定感が低い学年もあった。

地域・保護者は学校に協力的である。学習サポート・読み聞かせ・学援隊等、学校への協力体制が良好である。教員は重点研授業研究や5年次未満教員研修等、授業改善に向けて取り組んでいる。

今年度の目標

自ら考え、表現することができ、考えを伝えあうこと(かかわり合うこと)で、より志向を深めることができる子の育成。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 授業中心の研究
 実際授業を行い、それを参観し、授業をもとに語り合い、授業を改善していくことを目的とする。授業実践中心の研究活動を通して、追究した成果を日常の授業に生かしていくようにする。
 ○一人1回以上の授業を公開する。
 ○全体・部会授業研究会において、テーマ達成に向けて、自分の主張を明確にして取り組む授業を公開する。
 部会の研究について
 ○各部会については、発達段階に応じて、また児童の実態に応じて話し合い、仮説を立てたり、検証したりしていく。
 ○指導案検討
 検討の際、何が重点になっていくのかをはっきりさせ、以下の内容等を部会で検討する。その際、授業のシミュレーションを行うなど、具体的・実践的な検討になるようにする。
 (検討内容)児童の実態・単元構成・本時目標・学習問題・板書計画・評価計画・注目点についてなど
 ○学年で共同して教材研究、進め方を話し合っていく。
 ○1年間を通して、研究を深める。

下半期
 次の3つ視点で研究をすすめていく。
 「子どもをみとる(子ども一人ひとりの思いや願いを汲み取る)」
 →「目のまえの子どもにとって、本当に必要な学びは何か」を考え、子どもの実態を捉える、すなわち「子どもをみとる」ことから、授業をつくる。
 「体験的な活動を通して、子どもたちにとって必要感のある学びを目指す「単元づくり」」
 →「ヒト・モノ・コト」に豊かにかかわる単元構成を大切に。
 →子どもが主体的・継続的にかかわり、切実感をもてる学習材を吟味する。

下半期
 「かかわり合いを大切にしたい「授業づくり」」
 →授業の中での「かかわり合い」には、子どもと教材とのかかわり、子どもと教師のかかわり、子ども同士のかかわりなど、さまざまなかかわり合いが想定されるが、子どもと子どもの考えのかかわり合いに重点を置き、問題(課題)に対して自分の考えをもち、他者と考えを交流することをとおして、考えを深める授業を模索していく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①ペア学年でふれあい活動を工夫しながら、学級集団だけではなく異学年のつながりを築くようにする。 ②読み聞かせ、図書ボランティアの方々やふれ合う活動を通して、朝の時間を有効活用していく。また、年間を通してあいさつ運動に取り組み、幼保小や中学校との連携を図る。
担当	ふれあい委員会

豊かな心に関わる本校の状況

保護者の意識が高く、家庭的に恵まれた児童が多い。保護者や地域が学校に協力的である。
 一面的な価値観ではなく、多様な個性を認め合えるよう、子ども同士の人間関係を築き上げていくことが求められる。そのことが児童一人ひとりの自己肯定感を育てることにもつながると考える。また、児童の知的好奇心の高さや多様な課題に答えられるよう体験活動を充実させたい。

今年度の目標

・道徳教育の充実を図る。
 ・本物に触れる体験活動の充実を図る。(できることを考えて活動していく)
 ・ルールを守るなどの規範意識や礼儀(あいさつ・返事)を大切にしている指導の充実を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 道徳の時間をはじめ教科等、人権教育、ふれあい活動の充実を図り、一人ひとりが大切な存在であることを繰り返し指導し、自分に対する自信をもたせ、同時に周囲の人への思いやりの心や社会性を育てていく。
 年間を通して挨拶運動に取り組み、中学校との連携を図る。
 ・家庭・地域における子どもの実態把握
 ・異年齢集団の充実
 ・2学年ずつのふれあい活動などの「異年齢集団活動」をより自主的、意欲的に行うことができるようにする。
 ・集団宿泊体験の充実
 小中学校の学びを見通した上で活動のねらいを設定し、校外の豊かな自然や文化に触れる「集団宿泊体験」を充実させる。(活動内容や行程を検討していく)

下半期
 道徳の時間をはじめ教科等、人権教育、ふれあい活動の充実を図り、一人ひとりが大切な存在であることを繰り返し指導し、自分に対する自信をもたせ、同時に周囲の人への思いやりの心や社会性を育てていく。
 家庭や地域での様子について、子どもの実態把握を行い道徳の時間に生かす。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体力向上への考え方の趣旨を重視し、保健学習等を通して自己の体調・健康管理能力を育てていく。 ②一校一実践運動「一つでも運動をしよう」を取り上げ、体力アッププロジェクト(投力・リズムダンス活動・短縄練習)を通して体力の向上に励む。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

・体力調査の結果は、徐々に上がってきている。令和元年度では握力の数値が低下した。
 ・規則正しく生活している児童が多く、近くにあるスポーツクラブに通う児童も多い。
 ・保健室の利用状況は、転倒による打撲や擦過傷が主である。また、心の不安定さから来室する児童も多い。
 ・地域に外遊びができる空間はあるが、ボール運動等運動量の多い遊びができない環境にある。

今年度の目標

健康な生活習慣の確立と体力向上に向けた取組を推進し、健康の保持、増進に努める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 《体育科・保健体育科での取組》
 ○体育科では、「体育・健康に関する向上」を目標とし、体力調査の結果を個票にして配付し、継続的に自己の体力を知ることができるようにする。そして自分に合った体力向上の目標をもち、体育の授業や休み時間・放課後等に運動を継続して行うという態度を身に付けさせることが出来るようにする。また、体育科の授業においては、運動の特性に十分ふれられるようにするとともに、技能の習得を目指し授業を展開させる。
 保健学習においては、健康な生活や体の発育等、健康・体力の向上に直接関わる学習と関連させながら自分の健康についての意識を高める授業を展開させる。
 ・体力テストの有効的な活用
 ・指導計画改善(継続的なカリキュラム作成)

下半期
 体力テストの結果から苦手な運動を意識して教科外でも取り組む。
 ・体育委員会で体育的な行事を企画・運営し、本校の体力向上の一端を担う。
 ・運動会では、体育科の授業で培った資質能力をさらに発展させ、より高い技能を目指す。
 ・健康委員会、児童保健委員会では、児童の健康面での課題を年間テーマとして設定し、各学級で取り組むことにより健康への意識を高める。
 ・安全指導では、自分の身は自分で守ることが出来ることを基本とした訓練・指導を行う。
 ・食教育では、各教科・各領域および給食の時間等を通して、心身の成長や健康の保持増進の上で、望ましい栄養や食事の取り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。